

実習通信

第33号 2026.4.1

〒187-8570 東京都小平市小川町1-830
TEL 042-342-2311 (代表)

<https://daigaku.shiraume.ac.jp/>

実習指導センター

TEL 042-346-5283 FAX 042-346-5284

E-mail: j-center@shiraume.ac.jp

教職教育・研究センター

TEL 042-313-2433 FAX 042-313-2747

E-mail: k-center@shiraume.ac.jp

編集・発行 白梅学園大学・白梅学園短期大学
実習指導センター
教職教育・研究センター



学長挨拶

白梅学園大学・短期大学 学長

小玉 重夫

平素より本学の実習に関しましてご協力を賜り、誠にありがとうございます。

さて現在、ごども家庭庁や文部科学省の方で、保育指針や保育士養成課程、幼稚園の教育要領や小中学校の学習指導要領、教員養成課程等について、新しいカリキュラムの検討が進んでおります。そのなかでは、時代環境の劇的な変化によって、保育士や幼稚園教諭、小学校教諭等の養成においても大きな変更、アップデートの必要性があるという点について認識が共有され、また、私自身も保育士養成課程等検討会に委員として参加しつつ、議論が進められているところでです。これまでと決定的に大きく変わった点は、これまでの学習指導要領改訂等の議論における根拠規定には、子どもの権利を規定した国連子どもの権利条約への言及はなかったのですが、2023年のごども基本法の施行をうけて、子どもの権利条約が根拠規定として位置づけられ、カリキュラムを考えていく上で重要視されるようになった点です。これは極めて大きな変更であり、特筆すべき点です。

本学では建学の理念であるヒューマンニズムの精神に根ざして、子どもの権利を、福祉と教育、保育をつなぐコアとして重視してきましたので、上記のようなカリキュラ

ム改革の動向を積極的にふまえつつ、また、ポストヒューマンニズムの視点を取り入れつつ、保育や教育、福祉をアップデートして、社会の変革を先導する新しい子ども学構築にとりくんでいきたいと考えております。

本学がめざすそうした新しい子ども学に関しましては、本学子ども学研究所が刊行する雑誌『子ども学』（明文書林）の13号に掲載されたカリリン・ムリスの「ポストヒューマンな子ども」の動画を子ども学研究所のYouTubeチャンネルに掲載しております。次のQRコードからもアクセス可能ですので、ご覧いただけますと幸いです。このチャンネルには他にも関連動画をあげていく予定です。

今後とも、どうぞよろしくご指導をお願い申し上げます。



現場での学習機会に感謝

実習指導センター長

師岡 章

日頃より、本学の実習教育に対し、多大なるご理解、ご協力をいただき、心よりお礼申し上げます。

さて、2025年度も、本学では9資格・免許に関する実習を実施し、年間40程度の実習に、延べ約1,100人の学生が実習現場に赴きました。お陰様で、実習させていただいた

学生たちは、学内の専門教育科目を通して学んだ基本的な知識・技術を実践と結びつけ、保育・教育・福祉等の実践者として求められる専門的力量について、課題意識を高めたようです。特に、短期大学2年生、大学4年生の卒業年次の学生は、部分実習や一日実習等、いわゆる責任実習に取り組ませていただく中、少しずつ自信を高めるとともに、こうした貴重な経験を就職先で生かそうと受け止めておりました。新年度から働かせていただく保育・教育・福祉等の現場での活躍に期待したいと思います。

一方、初めての实習に臨んだ短期大学1年生、大学2年生は、緊張・不安もあつたようですが、現場の皆様のご指導、ご支援を受けながら、観察・参加実習を通して、保育・教育・福祉等の専門職の魅力に気づかせていただいたようです。

つきましては、新年度も保育・教育・福祉等に関する資格・免許の取得を目指す学生に対し、可能な限り、現場での学習機会を保障するため、引き続き、実習施設・機関のみなさまのご意向を踏まえつつ、実習生の受け入れを丁寧にお願ひしていく所存です。

なお、学科再編に伴い、博物館実習は昨年度(2025年度)で終了となりました。また、本年度(2026年度)で介護実習・心理実習も終了となります。さらに、大学子ども学科は2コース制の導入に伴い、幼稚園実習と保育所実習、また保育所実習とソーシャルワーク実習のいずれかをセットで選択する学生に分かれております。短期大学保育科

⑦支援を要する子の指導、⑧学校での教育活動について、⑨授業記録のとり方・活かし方です。以上のような学びを通して、教育実習全体の意義等について理解を深めると共に、実践的能力を高めました。

実習中の指導体制として、大学の専任教員と小学校教育実習指導員の先生が担当し、昨年度と同様に、実習前の訪問・実習中の訪問・研究授業を実施する訪問を3回実施し、学生に対して実習の段階に応じた適切な指導を行いました。

事後指導ではいくつかのグループに分かれて教育実習で学んだことを中心に、教育実習発表会に向けてのまとめの活動を充実にさせました。実習後の学生の発表からは、小学校の先生になる意思がより固まった、子どもという時間の大切さがわかった、実習校の先生や児童との交流を深めることができたなど、それぞれ学生が掲げた目標を達成することができたという成果の発表があり、学生にとって有意義な4週間の実習が行われたことを感じさせました。

このように充実した実習を支えていただいた実習校の先生方に感謝申し上げます。ありがとうございました。（中林 俊明）

●ソーシャルワーク実習

実習機関・施設の皆様におかれましては、昨年度も本学のソーシャルワーク実習に際し、ご理解ご協力をいただきまして感謝申し上げます。本学ではこれまで同様、3年生の2月と、4年生の8月に実習を実施しておりますが、学生の進路希望なども踏ま

え60時間実習と180時間実習については順序性を設けておらず依頼させていただいております。

さて昨年度は子ども学科21名の学生が実習に臨みました。実習指導者をはじめとする職員の方々からの熱のこもったご指導ご助言、並びに利用されている方やご家族の方との関わりは大学での学び以上の経験と自信を与えてくれました。それらは3・4年生合同の実習報告会で早速発表されており、実習を経験した4年生の報告は実習を経るたびに気づきの感覚が高まり、価値や倫理の観点から判断し、行動していることに幾度も驚かされます。卒業後にはほとんどの学生が福祉機関や福祉施設、保育所で専門職として歩んでいきますが、実習を経ることで得られた価値や視点、そして実践力は、必ず学生を支える力になっていきます。

ただ今年度の実習では学生の誤った判断と行動で職員の方にご迷惑をおかけし、利用者の方々にもお詫びさせていただきたい事案もありました。原因も明らかにした上で再発防止にむけて実習指導の充実を図っていきたいと思います。（牧野 晶哲）

●博物館実習

2025年度は、5名の学生が博物館実習に臨みました。例年通り、まず3年後期から4年前期にかけてB棟4階の博物館実習室を拠点に学内実習を行い、学外実習に向けた準備を整えていきました。そして7月末から9月上旬にかけて、それぞれの居住地等

に所在する博物館にて館務実習へと向かいました。

猛暑の中での実習となりましたが、5名それぞれ地域に根差した博物館の様々な活動に参加させていただきました。また、他大学で異なる分野を専攻する学生との交流から刺激を受けることも多かったようで、共同して展示物等のプロジェクトに真剣に取り組み姿を見ることができました。いくつかの実習先では、夏休み中の子ども館者への対応やイベントの企画などに携わらせていただくこともあり、そこでは、これまで大学4年間の子どもの学びや経験を踏まえて取り組むこともできたようです。学生からは「白梅での実習の集大成となった」との声も聞かれました。今後の進路、職業に博物館実習から得たものを生かしていつてもらいたいと思います。

大変残念ながら、昨年度を持ちまして本学の学芸員養成課程は閉講となりました。2025年度入学生より開始した本課程ですが、18年間で約140名の学生が実習に参りました。これまで長きにわたり、実習指導にご協力をいただきました先生方、快く実習をお引き受けくださった博物館関係者の皆様に改めて御礼を申し上げます。（尾崎 万帆子）

●子ども学部 発達臨床学科・子ども心理学

●教育実習（幼稚園）

2025年度は、例年通り5月に発達臨床学科3年生が参加・指導実習、2024年度新設の子

ども心理学科2年生が9月に観察・参加実習を2週間行いました。多くの実習生を温かく受け入れてくださり、日々の保育の中で丁寧にご指導いただきましたこと、心より御礼申し上げます。

2回目の実習となる3年生は、責任実習を見据え、主体的に保育に関わろうとする姿勢が多く見られました。実習後の発表会では、子ども理解が深まったことや、保育者としての視점에気づいた点が語られ、初めて実習に臨む2年生に対しても、経験を踏まえた実践的な助言を伝える姿が印象的でした。

一方、学科改編後初めてとなる子ども心理学科2年生の9月実習では、初めての現場に期待と不安を抱きながらも、子どもたちとの関わりで真剣に向き合う姿が見られました。思うように力を発揮できなかったと振り返る学生もおりますが、その経験を次の学びにつなげようとする姿勢が育ちつつあります。園の先生方からいただいた助言は、学生の成長にとって大きな支えとなっております。

今後とも幼児教育に貢献できる人材育成を目指し、学内指導の充実に努めてまいります。引き続きご指導、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。（川島 亜紀子）

●保育所実習

保育所実習Ⅱ（7名、以下実習Ⅱ）は11月5日（水）から18日（火）に、保育所実習Ⅰ（29名、以下実習Ⅰ）は、2月3日（火）か

ら2月17日(火)に実施しました。

実習Ⅱ事前授業では、①指導案づくり(保育をデザインする)②実習日誌の書き方(エピソードで記録を書く)について主に取り組みました。対話や意見交換の時間を多く持ち、より良い保育記録や保育案になるようチームとなって保育を作り出す取り組みを大切に行っていました。実習Ⅰ事前授業では、園で何を見学してくるか、実習生としての学びを楽しむための課題作りをテーマとして、「日誌の書き方」の他、先輩実習生との交流や実習中の課題(ねらい)の設定について理解する時間を持ちました。

また、各実習事前授業では、保育現場でご活躍されている先生方からご講義をいただきました。実習Ⅰの学生においては、乳児保育の面白さに触れることができ、楽しみを増やすことができたようでした。実習Ⅱの実習生は、講師の先生との対話から、保育士として勤めていくことの具体について知ることができたようでした。

今後も実習園の先生方と様々に協働させていただきながら、実習が学びの基礎の一つになるように、丁寧な指導に努めていきたいと思えます。

今後ともよろしくお願ひ申し上げます。
(宮田 まり子)

●施設実習

昨年度も本学、本学科の施設実習にご協力いただきましたありがとうございます。貴重な機会をいただきましたこと深く感謝申し上げます。

昨年度、施設実習Ⅰは、22名の学生が履修しました。一部の学生を除き、大部分の実習は夏休み期間内に行うことができました。

実習前に各施設の支援内容、施設職員の職務などを指導したところですが、実習日誌や反省会、発表会の様子を見ますと、実習ではより具体的な学びにつながったことがよくわかりました。特に、実習内で振り返りの機会や反省会を実施していただいたことを通して、様々なことを学ぶことができたと思います。また、一般的な幼児教育への道を考えていた学生の中には、施設実習をきっかけに施設への就職に向けての意欲も出てきて、そうした点も施設実習の意義と考えております。

施設実習Ⅱは、15名の学生が履修しました。施設実習Ⅱを選択した学生は将来福祉施設の職員として働くことを視野に入れている学生が多く、実習を通して進路へのイメージをつけることができた学生も多かったようです。そうした意味で、施設実習Ⅱは、自身の進路を考える上でも大変重要な実習であると考えております。

様々な個性や課題をもった学生もおりますので、対人援助職に就く者としての適格性などにつきましても引き続き、ご指導をいただければと思えます。末筆ではございますが、学生たちに丁寧なご指導をいただきましたこと、心から感謝を申し上げます。
(倉澤 壽之)

●教育実習(特別支援学校)

2025年度の特別支援学校教育実習・実習指

導は、4月から2月に行われました。2025年度は、東京都や神奈川県の特設支援学校で受け入れていただき、計11名の学生が実習に取り組みしました。この貴重な経験をもとに、各学生は4月から、特別支援学校教諭として正規採用された7名を含む、11名全員が教員としての勤務を開始しています。

2025年度の事前指導では、実習での授業実践に向け、仮想の事例(ケース)をもとに、模擬授業の実施に取り組みしました。学生は、各種障害の特性を踏まえ、各自で工夫を凝らしながら学習指導案や教材を作成し、授業を実施していました。また、特別支援学校で働く卒業生や学外講師の講話を受け、実際に現場で使用している教材などに触れながら、実習のイメージをより具体化させていきました。これらを踏まえ、各学生が実習での抱負と課題を作成し、決意を新たに実習へ臨みました。

実習では、各学生が小学部・中学部・高等部のそれぞれに配属され、知的障害や肢体不自由を有する児童生徒と日々関わりながら、研究授業に取り組みしました。その成果は、実習後に学内で報告され、後輩の学生へ特別支援学校で教育実践に取り組む魅力や熱心に伝える姿がみられました。これも、各校の先生方の丁寧なご指導の賜物であると実感しております。

2026年度も、多数の学生が各校にてご指導をいただくこととなります。引き続きよろしくお願ひいたします。
(橋本 陽介)

●心理実習

本学の公認心理師養成課程開始から早6年が経過いたしました。この間、延べ30名が本課程を履修し、修士課程修了後、国家試験に合格して公認心理師として相談業務に携わる卒業生が誕生するに至っております。実習にてお世話になった先生方をはじめ、諸機関の皆様へ頂いたご指導とご厚情に心より御礼を申し上げます。

昨年度の心理実習は4年生となった4名と、新たに3年生となった8名が履修いたしました。4年生は前期に実地実習、3年生は後期に見学実習が中心というスタイルを初年度より踏襲し、全体で80時間以上の実習に励みました。大変ありがたいことに、保健医療、福祉、教育、司法犯罪、産業・労働の5領域すべてで学ぶ機会を頂戴しております。網羅的に学べましたために、公認心理師としての専門知識の幅の広さに圧倒されながらも、学生たちは将来進みたい領域へのイメージが及んだだけでなく、具体的に何処と、何を、連携するのかの理解が進んだようです。ご多忙の中、学生にとつての大きな学びの場を提供下さいました先生方へ、心より感謝と御礼を申し上げます。お陰様で、4年生4名のうち1名は公認心理師養成課程の大学院へ進学準備中で(2025年1月23日現在)。これまで毎年大学院進学者がおりましたので是非とも合格して欲しいところです。また大学院へは進学しなかった3名についても対人援助職の道を選び、将来心理的課題を抱えた子どもや保護者に対して、カウンセリング・マインド

を持ちつつも、必要な場合には公認心理師の方達等へと橋渡しできる知識をもった保育者として現場で活躍して欲しいと思っております。

改めまして先生方皆様に心より御礼を申し上げますとともに、来年度も引き続き、ご無理のない範囲でご指導を賜われましたら幸いです。何卒よろしくお願い申し上げます。
(松田 佳尚)

子ども学部 家族・地域支援学科

●介護実習

介護養成課程廃止に伴い、現在最後の介護養成課程履修者の実習を行なっております。

2024年度入学2年生のⅡ期実習は、時期が変更となり、2025年夏実習となりました。そして2026年春休みにⅢ期実習を行ないます。

2年生のⅢ期実習は施設実習の総合的な実習であるため、1人の利用者様を受け持ち、介護過程を一貫して実践することが求められます。丁寧な事例情報を行い、学生はこの情報からアセスメント、計画立案をして、計画実施・評価に臨みます。その場で指導して下さった実習指導ご担当職員さんもおオンラインでご参加いただき、事例報告会も実施します。

この場をお借りして皆様に御礼申し上げます。

残念ながら、2026年度介護実習Ⅳが最後の介護福祉士養成課程実習となります。2024年度入学生が卒業する2027年度末で介護養成課

程は廃止となる予定です。

しかしながら学部全体で履修可能な初任者研修を新たに設置し、介護の基本を教育・保育を学ぶ学生も受講できるようにしました。

社会状況により、大学はより良い変化をしてみたいです。今後とも、ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。
(土川 洋子)

●ソーシャルワーク実習

家族・地域支援学科における2025年度のソーシャルワーク実習を無事終えることができました。実習実施に当たっては、現場実習を引き受けて下さいました事業所・機関の関係者の皆様のあたたかいご指導に心より感謝申し上げます。

今回担当した実習生で印象に残る学生の実習がありました。この学生は私のゼミ生でもあり、3年生から彼の姿を見てきました。普段はおとなしく、自分から発言することは少なく、消極的とも見える学生でした。指導者の方の実習当初の評価も同じでした。しかしこの学生が実習を経るごにみるみる変化し、巡回の際には自ら実習で学んだことや印象的な場面について積極的に話してくれました。また実習最終日には発表があったのですが、とても良い発表だったと指導者の方に褒めていただきました。これら学生の成長は実習内容と、指導者の方のエンパワメントの姿勢があったからこそと感じました。「この学生はおとなしく、消極的だ」とあきらめてしまうので

はなく、その学生の潜在能力をどのように引き出すかということを指導者の方が考えて下さった結果だと思えます。

学生は4年間の学生生活の中で人格的な成長を遂げていきますが、その中でも実習を経て成長・発展する姿が多くみられます。この成長・発展に今後ともご協力をいただき、未来を担う若者を育てるべく、われわれも尽力していく所存です。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。
(杉本 豊和)

●スクールソーシャルワーク実習

昨年度のスクールソーシャルワーク実習は1名の学生が履修し、足立区教育委員会において実習を実施しました。実習をご承諾いただいた足立区教育委員会をはじめ学校、そしてご指導くださいましたスクールソーシャルワーカーの皆様におかれましてはご多忙中にもかかわらずご指導いただき感謝申し上げます。何よりも本学を卒業したスクールソーシャルワーカー2名も学生指導に携わってくれたことは、養成課程を担当する教員としても嬉しくもあり心強くなりました。

さて学校における子どもの抱える問題に目を向けてみると、小学校と中学校を合わせるといじめの認知件数と不登校の児童生徒数はいずれも過去最多となっております。いじめの対応についてはスクールソーシャルワーカーも関わるよう法律等に規定されていますが、予防や直接的な対応の場で十分役割を發揮できていないことも多いで

す。不登校はアセスメントをした上で学校と協働して効果的に関わることが必要ですが、校内ケース会議においてもソーシャルワークの視点から捉え発言できていない方も多いです。

このようなことからスクールソーシャルワーカーの人材養成も喫緊の課題となっております。本学としても力量の伴う人材を輩出できるよう、これまで以上に教育課程を充実させていく必要があります。今後ともご指導のほどよろしくお願いいたします。
(牧野 昴哲)

短期大学 保育科

●幼稚園実習

2025年度幼稚園実習では、2年生65名が38園で実習を行い、1年生45名が38園で実習を行いました。先生方には、新学期お忙しい時期に丁寧な助言とご指導を頂きまして有難うございました。

2年生は、子どもの姿を身近に捉えながら指導案を作成するを経験し、温かいご指導を頂きながら3週間の指導実習を無事終えることができました。学内での振り返りでは、子どもそれぞれの姿を踏まえて対応することの難しさや、クラス全体を意識しながら個々への働きかけを行うことの大変さなどが話題となりました。一方で、「初めは保育士になりたいと思っていたが、実習を行い、幼稚園教諭になりたいと思った」との発言も複数聞かれました。実習を通じて、幼稚園教諭という仕事の魅力を感じ

に、実習指導において、学生の子ども理解や実践力の向上、書く力やコミュニケーション等、課題と感じていることについてお話ししました。

2部は実習種別ごとに5つのグループに分かれて実習先と大学の意見交換を行いました。各グループでは、実習の実施方法や内容、指導上の課題等、より具体的な点について意見交換を行いました。実習中の日誌の指導方法、職員と学生とのコミュニケーション、保育者の人材確保と質向上に向けた大学との協働の可能性、といったテーマについて話し合いがされました。

なお開催方法について、意見交換をするのにオンラインよりも対面の方が発言しやすいとのご意見がありました。また遠方の園・施設の方からは対面形式の時には参加できなかつたけれどオンラインだと参加できる、業務の合間を見て参加できる、というご意見も伺っております。開催方法については検討していきたいと思っております。

実習打ち合わせ会でいただいたご意見を学生指導に活かし、今後も園・施設と協働で保育・教育・福祉分野で活躍する人材を育成していきたいと思っております。

(安倍 大輔)

介護事例検討発表会及び 実習指導者打ち合わせ会

2025年12月13日(土) 9時30分から、オンラインで「介護実習指導者打ち合わせ会」

が開催されました。

2024年度の入学生は実習時期が変更となり、2025年2月～3月にⅠ期実習、2025年8月～9月にⅡ期実習、2026年2月～3月にⅢ期実習が予定されており、これまで同日開催をさせて頂いていた「介護事例検討発表会」は行わず、「打ち合わせ会」のみの開催となりました。

6施設、9名の実習指導者の方が参加され、その内の3名は卒業生で実習指導者として後進育成にあたっています。また、いずれの介護施設にも卒業生が就職しており、長きに亘りおつき合いをさせて頂きました。

今回は「介護福祉士養成課程の今後について」をテーマとし、学科長の土川より「介護福祉士養成課程廃止について並びに卒業生の就職状況」についての報告がありました。次に介護福祉士養成課程の教務主任の森山より「初任者研修、地域活動へのこれからの白梅」について報告させて頂きました。その後の実習指導者の方との懇談では、白梅での介護福祉教育として介護職員初任者研修が入ったことで安心した。介護福祉士養成課程の終了は大変残念だが、卒業生が活躍し仕事のやりがい話している。養成課程卒者は、専門性が高く意識も高い。介護福祉士を取得した後にも多様な方向性があるので今後も協力できることをしていきたいなどのお言葉も頂きました。白梅での大学院教育や外国人介護人材への教育、看護師の職能団体は国会議員を輩出し「一都道府県一看護大学」という政策を実現さ

せたことに触れ、介護福祉士の職能団体との違いなど、実習指導担当者同士の多岐にわたる情報交換の場になりました。

介護福祉士養成課程の学生たちは、2026年5月～6月にはⅣ実習(訪問・居宅実習)と並行してⅢ期実習での受け持ち利用者様の介護過程展開、介護計画の立案・実施・評価に対する事例のまとめを行います。7月には養成課程としての最後の事例発表会の開催を告知し、閉会となりました。貴重な学びの場を提供してくださったことに感謝し、今後ともご指導を賜りますようお願い申し上げます。(森山 千賀子)

ソーシャルワーク 実習報告会

子ども学科と家族・地域支援学科の両学科の3年生と4年生、実習指導担当教員が参加して実習報告会を開催いたしました(スクールソーシャルワーク実習と合同開催)。報告(4年生)は、6領域(行政・児童相談所、児童・児童養護施設、高齢・地域包括支援センター、障害・障害者支援施設、地域・社会福祉協議会、医療)から1名ずつ行いました。

実習生は、事前に実習計画を立てて現場に臨みます。ソーシャルワークの展開過程だけではなく、多機関連携、多職種との協働やネットワークキング等、座学としての学びがあります。また、事前に各実習先の取り組みの内容を調べています。しかし、実

際に実習に取り組むと、想定した場面もあれば、想定していなかった場面に出会うこともあります。例えば、利用者の主体性を尊重したとき、サービス利用を否定的にとらえている場合などのかかわることができるのか。支援者として何ができるのか。あるいは、利用者の思いと支援者の取り組みに齟齬が生じた場合、どのように調整できるのか。社会資源がない場合、地域や社会にどのように働きかければよいのか。実習生自身が持つ価値観が映し出され、自己覚知が進むこともあります。

このような取り組みの一つひとつが学びにつながるのには、実習生が問題意識をもって取り組んでいるだけではありません。学びの核になっているのは、利用者や関係者のみなさまが、実習生と関わりお話しただきましたことです。そして、現場で実習生を支えてくださった指導者や職員のみならず、事例や場面を言語化して学びへと変換するためにサポートをいただいていた賜物です。学びのプロセスを支えていただきました皆様に、改めて感謝申し上げます。

社会福祉の法や制度が対応する範囲は拡大をしています。それにもかかわらず、新しい課題が提起されています。既存の知識や技術だけではなく、社会福祉が大切にしてきた価値や思想をもとに、新しい取り組みも求められています。そのような現場に向かう学生にとって学びの多い実習であり、それを共有することができる実習報告会であったように思います。(井原 哲人)

● 2026年度 実習スケジュール

月	幼稚園実習			保育所実習			施設実習			小学校教育実習			介護等体験	特別支援学校教育実習		ソーシャルワーク実習		介護実習	スクールソーシャルワーク実習	心理実習
	子ども学科	子ども心理学科	保育科	子ども学科	子ども心理学科	保育科	子ども学科	子ども心理学科	保育科	子ども学科	発達臨床学科	家族・地域支援学科	教育学科	子ども学科	発達臨床学科	子ども学科	家族・地域支援学科	家族・地域支援学科	家族・地域支援学科	発達臨床学科
4																				
5			2年生幼稚園実習(5/25~6/13)							4年生教育実習(小学校)(5/11~6/6)実習校により前後あり	4年生教育実習(小学校)(5/11~6/6)実習校により前後あり	4年生教育実習(小学校)(5/11~6/6)実習校により前後あり						3年生介護実習Ⅳ(5月~6月)		4年生心理実習(4月~7月)
6	4年生教育実習(幼稚園)(6/1~6/13)																			
7																				
8							3年生施設実習Ⅰ(8/17~8/29)										4年生ソーシャルワーク実習(8/4~9/16)又は夏季休暇期間内	4年生ソーシャルワーク実習(8/4~9/16)又は夏季休暇期間内		
9	2年生教育実習(幼稚園)(9/7~9/19)	2年生教育実習(幼稚園)(9/7~9/19)	1年生幼稚園実習(9/7~9/19)					3年生施設実習Ⅰ(8/31~9/12)	2年生施設実習Ⅰ(8/31~9/12)					4年生特別支援学校教育実習(9/7~9/18)実習校により前後あり	4年生特別支援学校教育実習(9/7~9/18)実習校により前後あり					4年生スクールソーシャルワーク実習(6月~3月)
10													3年生介護等体験(6月~3月)							
11				3年生保育所実習Ⅱ(11/4~11/17)	3年生保育所実習Ⅱ(11/4~11/17)	2年生保育所実習Ⅱ(11/4~11/17)	3年生施設実習Ⅱ(11/4~11/17)	3年生施設実習Ⅱ(11/4~11/17)	2年生施設実習Ⅱ(11/4~11/17)											
12																				
1																				
2				2年生保育所実習Ⅰ(2/3~2/17)	2年生保育所実習Ⅰ(2/3~2/17)	1年生保育所実習Ⅰ(2/3~2/17)											3年生ソーシャルワーク実習(2/3~3/31)又は春季休暇期間内	3年生ソーシャルワーク実習(2/3~3/31)又は春季休暇期間内		
3																				

●各実習では、実習に向けて事前事後の指導を行っています。また、上記の日程は予定になります。

● 2025年度 実習生数

※実習生数には科目等履修生と大学院生を含む

短大	保育科	1年	幼稚園実習	45	保育所実習Ⅰ	44
		2年	幼稚園実習 保育所実習Ⅱ	65 39	施設実習Ⅰ 施設実習Ⅱ	67 28
大学	子ども学科	2年	教育実習(幼稚園)	77	保育所実習Ⅰ	90
		3年	施設実習Ⅰ	117	保育所実習Ⅱ	74
			施設実習Ⅱ	44	介護等体験	11
		4年	教育実習(小学校)	14	教育実習(幼稚園)	110
	子ども心理学科	2年	保育所実習Ⅰ	29	教育実習(幼稚園)	29
		3年	保育所実習Ⅱ	7	介護等体験	15
			教育実習(幼稚園)	26	施設実習Ⅰ	22
			施設実習Ⅱ	14	心理実習	8
	発達臨床学科	4年	教育実習(小学校)	10	心理実習	4
		教育実習(特別支援)	10			
		2年	介護実習Ⅱ	6	介護実習Ⅲ	6
			介護実習Ⅳ	14	介護等体験	0
家族・地域支援学科	3年	ソーシャルワーク実習	19			
	4年	ソーシャルワーク実習	8	スクールソーシャルワーク実習	1	
		教育実習(小学校)	1			

● 昨年度も白梅学園大学・短期大学の各種実習を実施するに当たり、実習関係先等関係者の皆様のご理解とご協力を賜りましたことに改めて感謝申し上げます。白梅学園大学・短期大学実習指導センター及び就職教育・研究センターでは、学生のキャリアデザイン及びキャリア選択に向けての学びの深化を目指して、今年度も皆様との連絡・連携のもと、実習指導及び支援のさらなる質の向上を図って参りたいと考えております。今後とも、ご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。(三藤 敏樹)

編集後記